

第1学年 国語科学習指導案

日 時 令和3年11月10日(水) 5校時

場 所 1年2組教室

児 童 男16名 女14名 計30名

指導者 服部 悠人

1 単元名 せつめいする文しょうをよもう

教材名 じどう車くらべ(光村図書 1年)

2 内容のまとめ

第1学年

〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項 ア

〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読むこと」(1) ア, ウ

3 単元の目標

(1) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2) ア

(2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) ア

(3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ

(4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

4 単元について

(1) 児童について

ア これまで「くちばし」では、「問い」と「答え」を捉えて読むこと、「うみのかくれんぼ」では、大事な言葉
を確かめながら読むということを学習してきた。

イ 「うみのかくれんぼ」の学習では、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える学習経験がある。

ウ 児童は、事柄の順序を注意しながら読んだり、文章の中の重要な語や文を考えて選び出したりする力が身に
付いてきている。

(2) 教材について

ア 本教材は、「うみのかくれんぼ」同様、「問い+答え+答え+答え」という列挙型になっている説明文であ
る。「どんな仕事をするのか」、そのために「どんなつくりになっているのか」という問いが二つあるため、二
つの段落に分けて書かれている明確な構成である。

イ 本教材は、重要な言葉を見つけながら文章構成に気付き、まとまりを意識しながら読むことに適した教材で
ある。また、写真や絵を手掛かりに「つくり」をとらえ、「しごと」を対応させることにも適している。

(3) 指導について

ア 本単元における諸活動として、自動車のしごととつくりを抜き出して自動車カードにまとめる活動を言語
活動として位置付ける。また、単元の最後には、挿絵から「しごと」と「つくり」を見つけ、学習してきた文

型を使いながら自身で説明文をまとめる活動を行う。

イ 挿絵の「つくり」に気を付けることで、文章の「しごと」と「つくり」が対応していることを理解させる。自動車カードをまとめるときは、「しごと」のときは、「〇〇しごとをしています。」「つくり」のときは「〇〇（つくって）あります。」という文末表現や、「しごと」と「つくり」をむすぶ「そのために」という言葉を確認して取り組ませたい。また、友だちと読み取った自動車カードを読み合う機会を設定する。文型が合っているかや、「しごと」と「つくり」が対応した文章が書けているかなど、確認する視点を提示し交流していきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 ((2) ア)	① 「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア) ② 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C (1) ウ)	① 進んで、文章の中の重要な語や文を考え、学習の見通しをもって、「自動車カード」つくりに取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画（全7時間 本時7/7）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第1次	1	○自動車の種類について、知っているものを話し合う。 ○範読を聞き、出てきた自動車や、説明されていたことについて確かめ、学習課題を設定する。	・P28の挿絵を参考にしながら活動を行う。 ・挿絵を参考にさせながら、出てきた自動車の種類を確認させる。また、「しごと」だけではなく、「つくり」についても説明されていることを押さえ、学習課題を設定するようにする。	
第2次	2	○文章全体の構成を捉える問いの文や出てきた自動車を確認、内容の大体を捉える。	・問いが二つあることを確かめる。また三つの事例を挙げて答えが書かれていることを押さえる。	【知・技①】 [発言・記述] 「しごと」に合った「つくり」が説明されていることに気付いているか確認する。

	3	○バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取り、カードにまとめる。	・なぜその「つくり」になっているのか、「しごと」と関連づけて捉えられるようにする。	【思・判・表①】 【発言・記述】 それぞれの自動車の説明を読み、その「しごと」と「つくり」を捉えているか確認する。 【主体的①】 【発言・記述】 さまざまな自動車には、それぞれ「しごと」と「つくり」があることに興味をもち、学習課題に進んで取り組もうとしている。
	4	○トラックの「しごと」と「つくり」を読み取り、カードにまとめる。	・なぜその「つくり」になっているのか、「しごと」と関連づけて捉えられるようにする。 ・前時の「バス、乗用車」との「しごと」「つくり」の違いに気付けるようにする。	
	5	○クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り、カードにまとめる。	・なぜその「つくり」になっているのか、「しごと」と関連づけて捉えられるようにする。 ・前時の「バス、乗用車」「トラック」との違いに気付けるようにする。	
	6	○どんな順番で自動車が登場しているかを話し合う。	・身近なものから順に登場していることを押さえる。	
第3次	7 (本時)	○はしご車の「しごと」と「つくり」を考え、カードにまとめる。	・これまでに登場した自動車の説明で、捉えてきた事柄の順序となる言葉をヒントにしつつ、「しごと」に合った「つくり」を選んで書くように助言する。	【思・判・表②】 【発言・記述】 はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を捉えている。

7 本時の指導（7 時間目/全 7 時間）

（1）目標…はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を捉えることができる。

視点1…児童の既存の知識や様々な経験を結び付けて自分の考えをもたせ、表現させる

手立て…①既存の知識や様々な経験の確認

④確認交流（ペア・全体）

視点2…自分の考えを深めて表現させる

手立て…⑤言葉による見方・考え方を働かせる掲示・発問

⑥友だちとの学び合い（ペア・全体）

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）
つかむ (5分)	1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。	・ クレーン車の学習を想起させ、車の説明文が「しごと」と「つくり」が対応していることについて確認する。 ・ はしごが伸びる挿絵を見せ、しごとをしている部分に印を付けることで、高いところでしごとをすることを確認する。
深める (35分)	2 はしご車の「しごと」と「つくり」について話し合う。 (1)「しごと」について考える。 ○しごと ・ たかいところのひをけす。 ・ たかいところのひとをたすける。 (2)「つくり」について考える。 ○つくり ・ ながいはしがついています。 ・ あしがついています。 ・ ホースがついています。 ・ くるまがあかいです。 ・ タイヤが6つついています。	・ はしご車の動画を繰り返し見せ、「しごと」を全員で確認できるようにする。 ・ はしご車を動作化することで、「たかいところ」でしごとをしていることを、体感と視覚で理解できるようにする。 ・ しごとのあとに出てくる、「そのために」を確認することで、しごととつながるつくり気付かせる。 ・ 気付いた「つくり」を視覚化するために、挿絵に鉛筆で丸を付けさせる。 ・ 「しごと」をするために、どんな「つくり」になっているかを発問することで、挿絵の中で指で指しながら、2つを結び付けられるようにする。
	3 はしご車の説明文をつくる。 【 視点1で期待する姿 】 バスやじょうよう車・トラック・クレーン車で学習してきた、しごと→そのために→2つのつくりという自動車を説明する事柄の順序を使ってはしご車の説明ができる。 (1) はしご車の説明文を自分でつくる。	視点1 ・ 今まで学習してきた、説明文の事柄の順序を想起させ、はしご車も同じく表現できることを意識できるようにする。 ・ お互いの作った説明文を、「～しごとをしています。」「そのために、」「つくりワード（～ついています、～あります、ついています。）」が使われているかという視点で交流させることで、説明文が完成しているかどうかをペアで確認できるようにする。

	(2) 児童同士で「しごと」と「つくり」が対応できているか確認する。	◇ はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を捉えている。(発言・記述)
4	はしご車の説明文を提示し、比較しながら学び合う。 【視点2で期待する姿】 教師のはしご車の説明文と教科書のはしご車の挿絵を比較することで、つくりがたくさんある事に気づきさらに、その中からはしご車の仕事につながる重要性の高いつくりを選び、文章化することができる。 (1) 教師が作った説明文と、自分の作った説明文を比較しながら、全体で違いを見つける。 《教師の作った説明文》 はしご車は、たかいところの火を消します。 そのために、のびちぢみするはしごがついています。車体がかたむかないようにしっかりと足がついています。ホースがついています。タイヤがたくさんついています。 (2) はしご車の説明文を考え、隣同士で学び合う。	視点2 ・ 「しごと」と「つくり」が対応しているが、「つくり」が2つより多くある例を提示し、自分たちの説明文と比較させることで、挿絵の中には多くのつくりがあることに気付くことができるようにする。 ・ 気付いた様々な「つくり」の中から、「しごと」を説明するために特に重要な「つくり」を、改めて2つ選択させることで、より重要な語を考えて選びだすことができるようにする。 ・ 重要な語を考えて選び出せていることが可視化できるように、自分の挿絵の上で、仕事をしている部分とつくりを指し示しながら説明するようにする。 ◇ 「しごと」と「つくり」がより対応した説明文をまとめることができている。(発言・記述)
	○児童の説明文例 ・ はしご車は高いところにいる人をたすけるしごとをしています。 - そのために、のびるはしごがついています。しゃたいがかたむかないように、しっかりとあしがついています。かごがついています。 ・ はしご車は、たかいところのひをけします。 - そのために、はしごがついています。はしごに火をけすホースがついています。	

まとめる (5分)	5 本時の学習を振り返り、次の単元への見通しをもつ。	・ 登場しなかった車の絵を見せ、次単元への思いを膨らませる。
--------------	----------------------------	--------------------------------

(3) 評価規準

評価の観点	おおむね満足できる	支援を必要とする児童の手立て
・ はしご車の資料から「しごと」と「つくり」を重要な語句を選択しながら、事柄の順序を考えてまとめることができる。	・ はしご車の「しごと」と「つくり」を対応して捉え、説明文をつくらせている。	・ 「しごと」をするには、どんな「つくり」になっているか、絵と対応させる。

(4) 板書計画

はしご車は、たかいところの火を消します。

そのために、のびちみするはしごがついています。車体がかたむかないようにしっかりとした足がついています。ホースがついています。タイヤがたくさんついています。

○しごと

- ・ たかいところの火をけす。
- ・ たかいところにいるひとをたすける。

○つくり

- ・ ながいはしごがついています。
- ・ あしがついています。
- ・ ホースがついています。
- ・ 車があかいです。
- ・ タイヤが6つついています。

はしご車の写真

しごとをしています。

そのために、

- ・ つくってあります。
- ・ あります。
- ・ ついています。

④ はしご車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。

- 6 -